

# 秋田県の博士号教員について

秋田県立横手清陵学院 高等学校教諭

瀬々将吏

秋田県は平成 20 年度から、「博士号教員」という仕組みを設けて、博士号保有者の採用を行っている。筆者の専門分野は理論物理学（ひも理論）であるが、平成 20 年の初回の募集で採用されて以来、高校教員として教育・研究に従事している。本校では採用の経緯や、高校での活動の様子を紹介する。

## 採用までの経緯

秋田に来る前は台湾大学でポスドクをしていた。次のポストを探していたときに、「博士号教員」の募集内容が、素粒子論グループのメーリングリストに流れてきた。高校での仕事ということで躊躇はあったが、いろいろと考えて応募することに決めた。応募を後押しした主な理由は家庭の事情（台湾に移る頃に結婚し家族を持った）であるが、それ以外の理由もある。ひとつには、高校には理論研究だけでなく生徒と実験ができる環境があることである。筆者の専門とするひも理論は極めて抽象的（フォーマル）な分野であり、しばし現実の物理との接点を見失いがちである。初歩的な実験を日常的に行うことにより、そのような不安を軽くしたかった。

第 2 の理由は、通常の大学のポストでは得られない教育のキャリアを形成したいという理由である。高校に行けば、教育はより生徒に近い立場で行なわれているから、多くのことが学べるだろうと考えた。

## 高校での勤務

「博士号教員」としての、通常の教諭と異なる業務は「出張授業」である。県内の小中高から依頼を受けて、特別授業（研究の入門的な話）や実験等を行なっている。これが月に平均すると二回くらいある。また、県が夏と冬に行なう高校生の研修「合宿セミナー」の運営や授業の担当も重要な仕事である。その他の仕事はそれぞれの勤務校の事情や個人の適正に応じて行なっている。筆者は特に SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の仕事を行なっている。

校内での扱いは他の教師とそれほどかわらない。クラスの副担任につき、分掌業務（校内の事務的な役割分担）も行なう。体育祭、学園祭などの行事などにもほとんど参加する。

自分の研究については、これまでの研究と新たに始めた教育の研究の両方を行なっている。教育関係では SSH の指定を受けたことによりやりやすくなった。研究会などは完全に自由とはいかないが、できる範囲で参加させていただいている。もともと理論の研究が専門なので、時間さえ確保できれば続けられる。

## 博士号教員のこれから

秋田県が最初に実施した博士号教員の試みは、他県にも広がっており、今後もこの動きは続くと考えている。SSH に代表されるような理数教科・国際化の事業が行なわれる背景には、グローバル化が進み、アジアや他地域の新興国が急速に力をつけてきていることに対する危機感、焦りがある。受験問題を解く能力だけでなく、自然科学・技術への興味を持ち、創造性を発揮できる人材が求められているのである。そこで本格的な自然科学研究の経験をもつ博士号取得者ができることは大きい。通常の授業や出張授業、課題研究の指導やキャリア教育等、いたるところに力を発揮できる場面がある。秋田県の博士号教員は初採用の世代が4年目に突入し、高校教育のことを知るフェーズから、博士号教員ならではの教育をつくりあげ、後に続く方々のための環境整備の段階に入ったと考えている。早速研究会※を立ち上げて活動している。

実験設備がいない数学者にとって、高校教員は就職後も研究が続けられる、数少ない職場のひとつである。生徒指導・特別活動・クラブ活動と duty は多いが、最近の大学の状況を見る限り、仕事量は大差ないのではと感じている。待遇もそれほど悪くない。

それにも増して、現場には研究経験のある人材が求められている。先入観を持たずにぜひ教育の世界に飛び込んできてほしい。

※博士教員教育研究会

<http://phdteachers.org/>